

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

●東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準拠評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「知識・技能」の定着に課題が残る

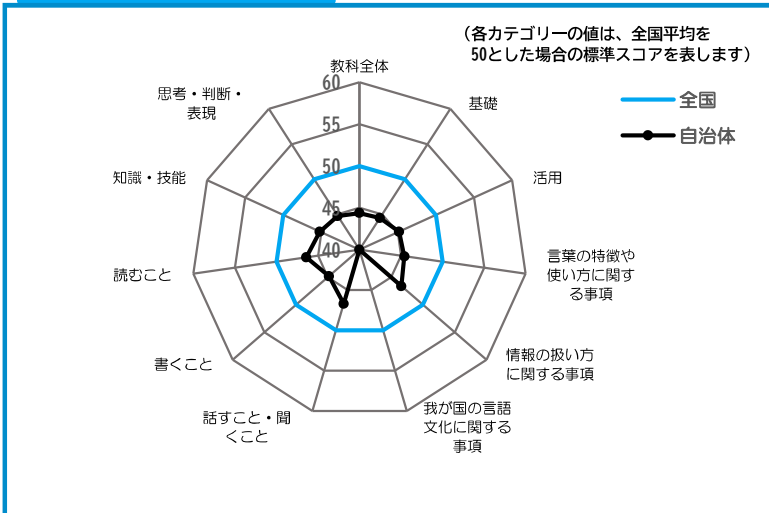
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		72.4	64.7	
基礎		76.8	68.1	
活用		63.1	57.5	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.4	71.0	
	情報の扱い方に関する事項	75.0	66.6	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	73.3	72.8	
観点別	書くこと	63.3	54.3	
	読むこと	70.0	61.3	
	知識・技能	79.0	70.6	
	思考・判断・表現	68.0	60.8	

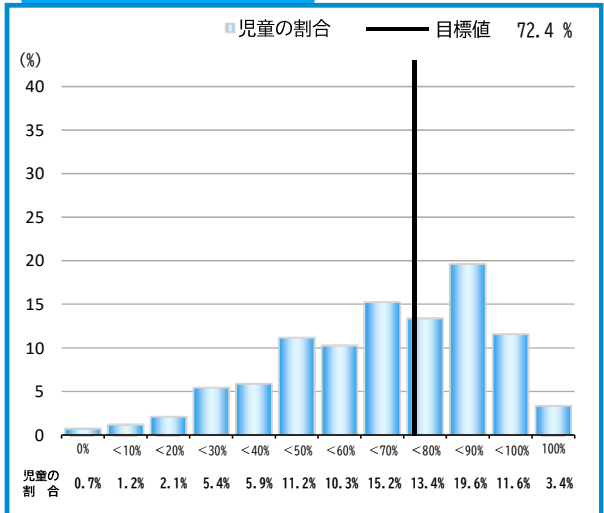
分析コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が64.7%で、目標値を7.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が70.6%で、目標値を8.4ポイント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。

目標値 70.0% 正答率 49.9% 差 ▲ 20.1 ポイント

指導のポイント 問題で定められた6行から8行の間で文章を書くことができるかを見る問題である。日頃から、200字程度の長さで、自分の考えとその理由をまとめる活動を繰り返し行うことにより、伝えたいことの中心を捉えた文章を書くことができるようになる。継続的に取り組んでも、児童にも教師にも負担のない分量であるので、学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面で書く経験を積ませていきたい。

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 70.0% 正答率 50.3% 差 ▲ 19.7 ポイント

指導のポイント 漢字の書きの指導においては、新しい漢字を学習する際に、熟語作りや文作りの活動をできるだけ多く取り入れることが大切である。ゲーム形式で、身の回りのものを習った漢字を使って書かせるなど、漢字を日常的に使われる形にして習得させることが必要である。

小3 算数

「知識・技能」の定着に課題が残る

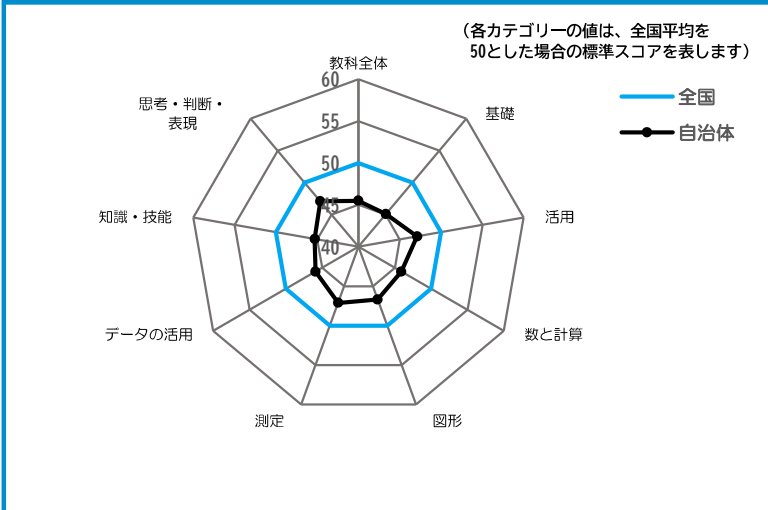
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		71.3	62.8	
基礎		77.1	67.7	
活用		57.8	51.3	
領域別	数と計算	70.3	62.5	
	図形	76.7	67.1	
	測定	73.0	65.3	
	データの活用	70.0	56.0	
観点別	知識・技能	76.5	67.7	
	思考・判断・表現	50.8	43.2	

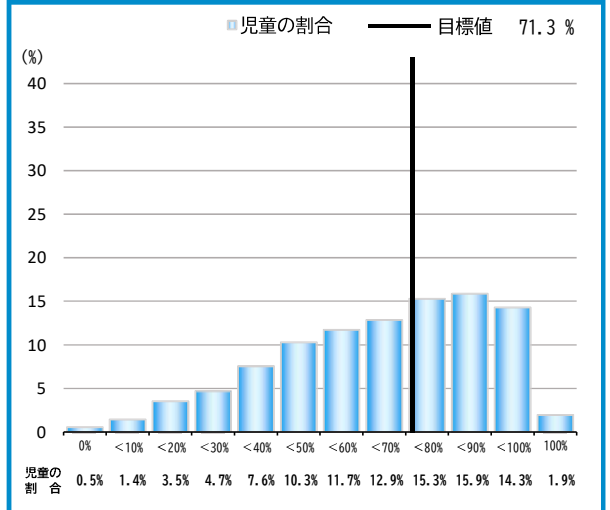
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が62.8%
- で、目標値を8.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「知識・
- 技能」が67.7%で、目標値を8.8ポイント
- 下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

表とぼうグラフ

大問17(1)

<ねらい> 棒グラフを読み取ることができる。

目標値 65.0% 正答率 44.3% 差 ▲ 20.7 ポイント

指導のポイント 棒グラフに表された数量を読み取るには、1目盛りの大きさに着目することが大切である。本問のグラフの場合、0と10の間に5目盛りがあるので、1目盛りの大きさは2人となる。棒グラフの中には、0から始まっていないものもある。また、折れ線グラフの中には、波線で途中が省略されているものもある。目盛りの大きさによってグラフの見た目の印象が変わるので、1目盛りの大きさを確実に読み取り、正しくグラフを読み取っていく批判的な思考も重要になってくる。どのようなグラフでも、1目盛りの大きさに着目できるように指導したい。

たし算・ひき算

大問3(6)

<ねらい> 4けた-3けた=3けた(波及的繰り下がりがりあり)の計算ができる。

目標値 70.0% 正答率 54.7% 差 ▲ 15.3 ポイント

指導のポイント 減法の計算問題では、計算するけたが増えらると、位がずれる、繰り下がりがあったことを忘れて計算してしまうなどの間違いが起きやすい。方眼のあるノートを用いて、繰り下がったときには被減数を斜め線で消し、上に繰り下がった後の数を書くなどの工夫をさせることで、一の位から順番に計算していけば、必ず正しい答えを導き出せることを実感させたい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

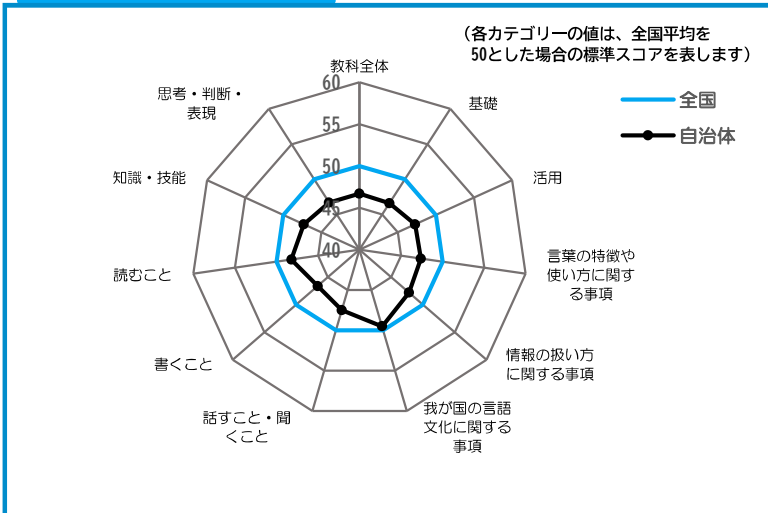
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		68.8	63.7	
基礎		72.9	68.2	
活用		61.1	55.2	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	72.8	
	情報の扱い方に関する事項	60.0	59.1	
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	68.8	
	話すこと・聞くこと	66.0	57.6	
	書くこと	67.5	60.9	
観点別	読むこと	61.7	57.0	
	知識・技能	74.5	71.2	
	思考・判断・表現	64.7	58.3	

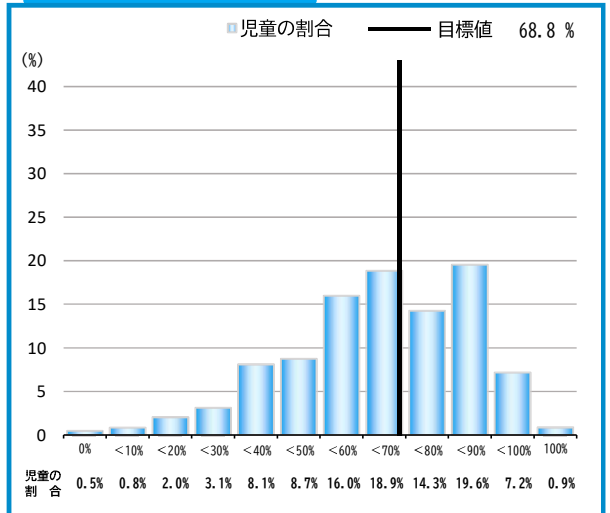
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が63.7%
- で、目標値を5.1ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が58.3%で、目標値を6.4ポ
- イント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 80.0% 正答率 48.8% 差 ▲ 31.2 ポイント

指導のポイント 送り仮名を間違えやすい漢字については、最初に誤って記憶してしまうとそのままになってしまう傾向が強い。分からない漢字があれば、その都度辞書などで確認させ、正しい漢字の知識を身に付けさせたい。送り仮名を間違えやすい漢字をまとめて取り上げたり、クイズ形式で出題したりして、年間を通して正しい理解の定着を図ることが大切である。

活動をふり返って話し合う

大問6(2)

<ねらい> 相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話している。

目標値 40.0% 正答率 18.9% 差 ▲ 21.1 ポイント

指導のポイント 【クッキーの作り方】を丁寧に読んでいくと、ポイントの一つ目に、焼いた時にかたくならないための注意として、「生地をこねすぎない」とある。あとは、「注意する点」にあるように、「どの手順のときに」「何に注意すればよかったのか」という順番に当てはめて書いていけばよい。何を書くのかが分かっていても、書き方がよく理解できないという児童も多い。授業の中で、課題を示すだけではなく、何をどのように書いたらよいかを丁寧に指導していくことが大切である。そうした指導を通して、書き方を身に付けさせたい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

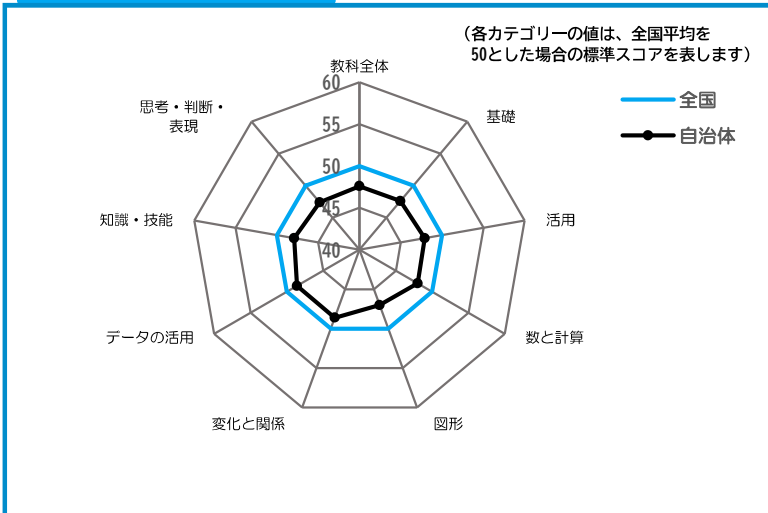
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.1	60.1	
基礎		66.1	61.1	
活用		60.5	58.3	
領域別	数と計算	66.0	62.4	
	図形	61.7	53.3	
	変化と関係	70.0	64.5	
	データの活用	56.7	58.3	
観点別	知識・技能	68.5	65.4	
	思考・判断・表現	54.4	48.4	

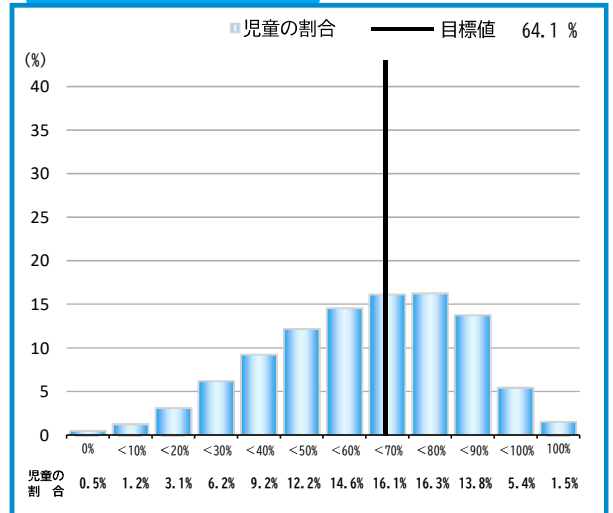
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が60.1%
- で、目標値を4.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が48.4%で、目標値を6.0ポ
- イント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

角の大きさ

大問11(2)

<ねらい>

角の性質がわかり、2直線が交わってできる角の大きさを計算で求めている。

目標値 60.0% 正答率 38.9% 差 ▲ 21.1 ポイント

指導のポイント

これまでの学習で、直角、直角2つでまっすぐな直線になるといった形で理解してきた角の大きさについて、回転角と捉えることによって数値化できることを理解させたい。数値化されることで直角は90°、2直角(平角)は180°となり、計算で角の大きさを求められるようになる。90°や180°を利用することで、補角の大きさ、180°を超える角の大きさを計算で求められることよさが分かるように指導することが大切である。

計算のきまり

大問10

<ねらい>

分配法則を用いて計算している。

目標値 55.0% 正答率 40.6% 差 ▲ 14.4 ポイント

指導のポイント

空欄に当てはまる式を選択させることにより、分配法則を用いた計算の仕方の理解を問う問題である。分配法則の意味については、長方形の面積を求めるなどの具体的な事象における考察を通して、しっかりと理解させたい。また、分配法則を使うことで、速く、簡単に、正確に計算できるよさを、具体的な計算を行う中で計算過程を比較させることにより、実感させることが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

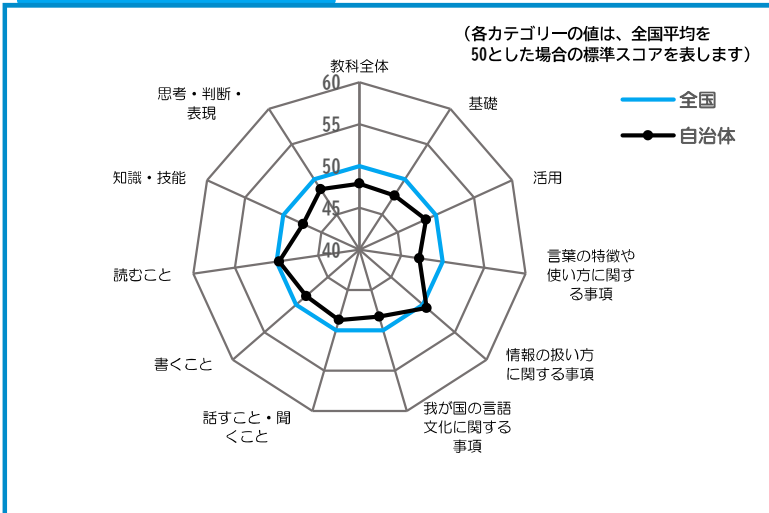
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.9	65.1	
基礎		70.6	68.2	
活用		58.8	58.0	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	71.6	
	情報の扱い方に関する事項	65.0	61.0	
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	46.3	
	話すこと・聞くこと	73.3	76.7	
観点別	書くこと	62.0	54.4	
	読むこと	61.7	61.0	
	知識・技能	70.0	68.6	
	思考・判断・表現	64.3	62.0	

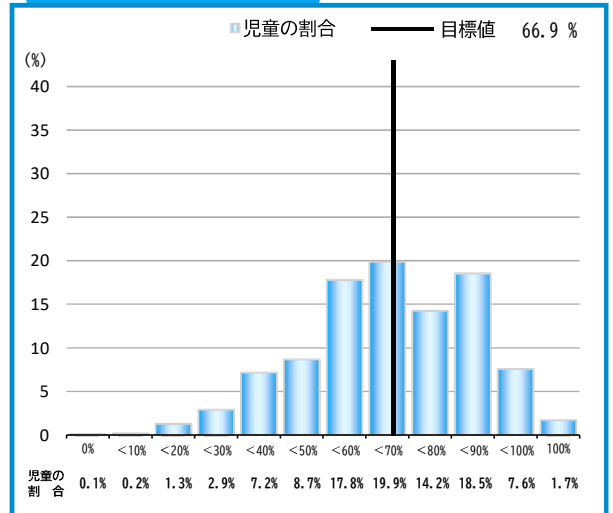
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が65.1%
- で、目標値を1.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が62.0%で、目標値を2.3ポ
- イント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 文章全体の構成や展開を考えている。

目標値 70.0% 正答率 50.1% 差 ▲ 19.9 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題であり、第一段落に「資料から読み取ったこと」を書くこと、第二段落に「一つ目の段落に書いたことをもとに、それに対する自分の考え」を具体的に書くことが求められている。作文に当たっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書く力を養わせていきたい。

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 第4学年に担当されている漢字を正しく書いている。

目標値 60.0% 正答率 41.6% 差 ▲ 18.4 ポイント

指導のポイント 漢字については、文脈に沿って読み力だけでなく、正しく書く力も育てる必要がある。文を書く際には、漢字自体の意味を考えながら、正しく使えるように指導することが大切である。また、他教科における書く活動や宿題の中で繰り返し書かせることにより、漢字を書くことに対する抵抗感を軽減させることも重要である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

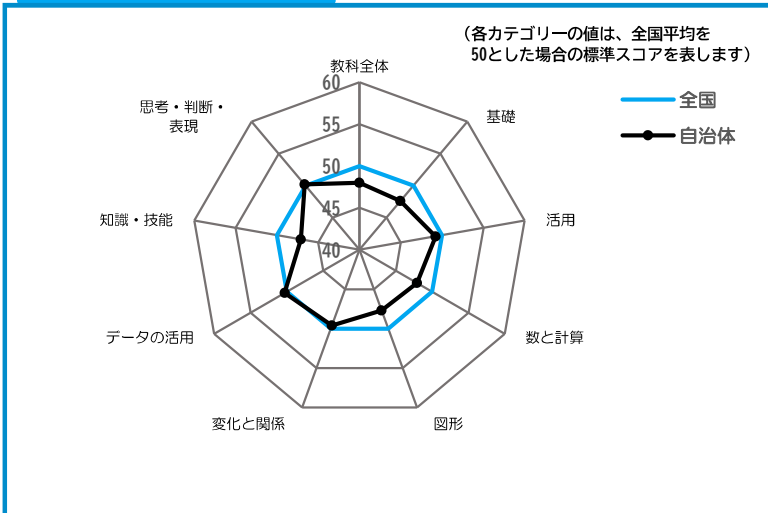
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		61.7	57.5	
基礎		67.3	62.5	
活用		49.4	46.4	
領域別	数と計算	64.4	61.1	
	図形	62.5	55.2	
	変化と関係	46.7	42.7	
	データの活用	60.0	60.2	
観点別	知識・技能	65.3	57.9	
	思考・判断・表現	53.9	56.6	

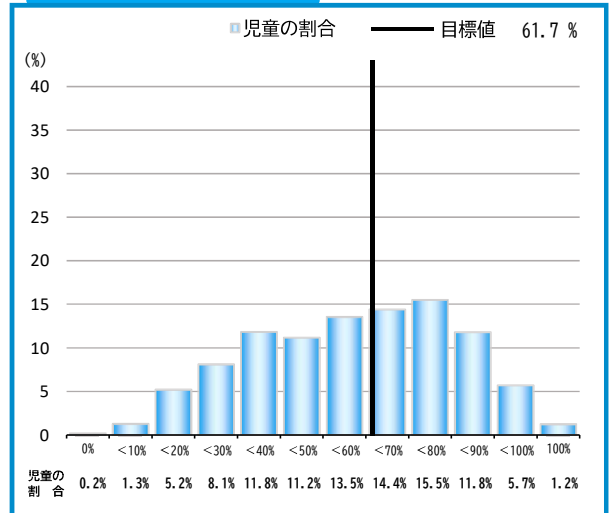
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が57.5%
- で、目標値を4.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が56.6%で、目標値を2.7ポイント上回った。一方、「知識・技能」が57.9%で、目標値を7.4ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

体積

大問9(1)

<ねらい> 立方体の体積を求める式を理解している。

目標値 75.0% 正答率 48.0% 差 ▲ 27.0 ポイント

指導のポイント 直方体や立方体の体積については、1辺が1cmの立方体の積み木を使って、いくつ分になるかを調べる活動などを通して、その意味や単位について考えさせることが大切である。その上で、直方体や立方体の体積を求める公式の意味を理解させたい。単に公式を暗記させるのではなく、面積の求め方に立ち戻った指導を行う必要がある。

単体量あたりの大きさ、比例

大問15(2)

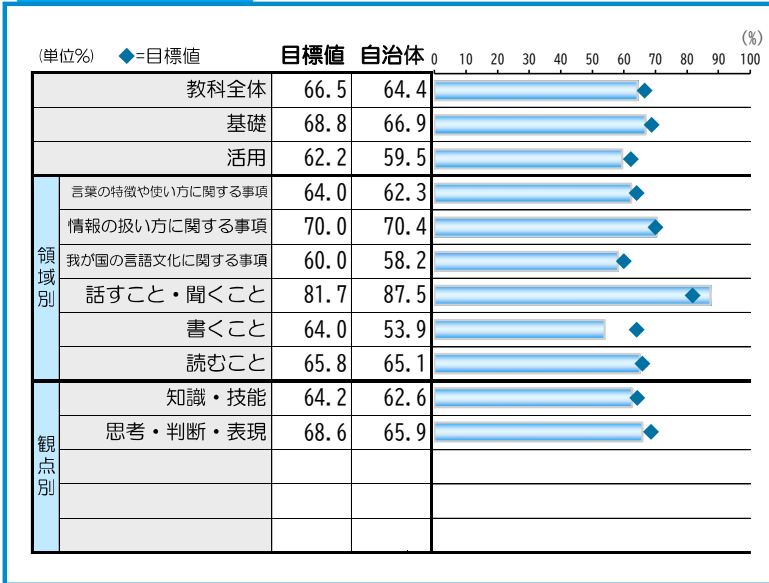
<ねらい> 人口密度と面積から、ある町の人口を求めることができる。

目標値 30.0% 正答率 8.4% 差 ▲ 21.6 ポイント

指導のポイント 人口密度を求める公式は人口÷面積であるが、本問では、公式に頼ることなく、面積と人口が比例関係にあることを利用し、数直線に表して答えを求められるようにしたい。比例関係に着目すれば、人口密度だけでなく、速さも同じように求められることのよさが分かるように指導することが大切である。なお、人口密度については、実際は人が住めない山の中なども含めてならして考えていることを前提にしていることにも触れておくとよい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

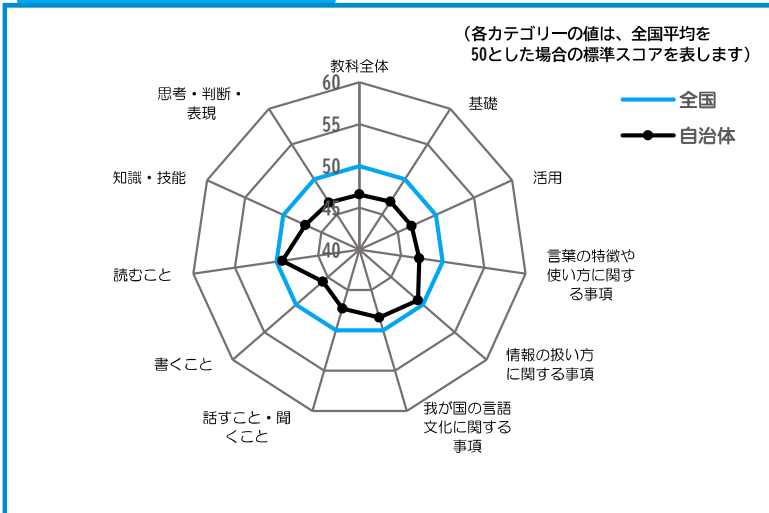
正答率一覧



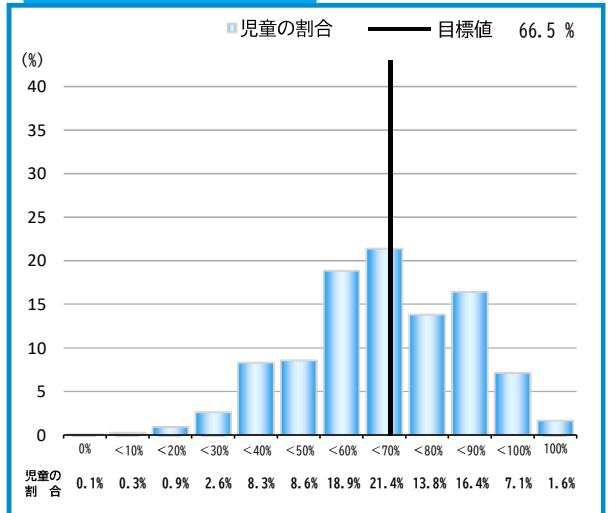
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が64.4%
- で、目標値を2.1ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が65.9%で、目標値を2.7ポ
- イント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

レポートを書く

大問6(2)

<ねらい> 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整えている。

目標値 40.0% 正答率 24.0% 差 ▲ 16.0 ポイント

指導のポイント 本問で解答するに当たっては、まず必要な情報を選択する必要がある。〈注意する点〉に書かれている条件を基に、アマガエルについては「調べて分かったこと」の①、ネコについては②の中の必要な情報に下線を引いたり、○で囲んだりするなどして印を付けておく。次に、それらの情報を指定の字数でまとめるようにする。その際に大事なことは、空欄に当てはまるように適切に書くということである。児童の中には、必要な情報は理解できて、書き方が分からない者もある。こうした書き方の指導について、もっと重視して学習を工夫していくようにしたい。

文章を書く

大問7

<ねらい> 文章全体の構成や展開を考えている。

目標値 70.0% 正答率 56.8% 差 ▲ 13.2 ポイント

指導のポイント 文章を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。本問では、第一段落で、二つの案のうち、どちらに賛成か、及びその理由を書き、第二段落で、予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く。重要なのは、意見及びその理由と、反論及びそれに対する自分の考えを二つの段落に分けて書くことである。日頃から、自分の考えや感想をもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

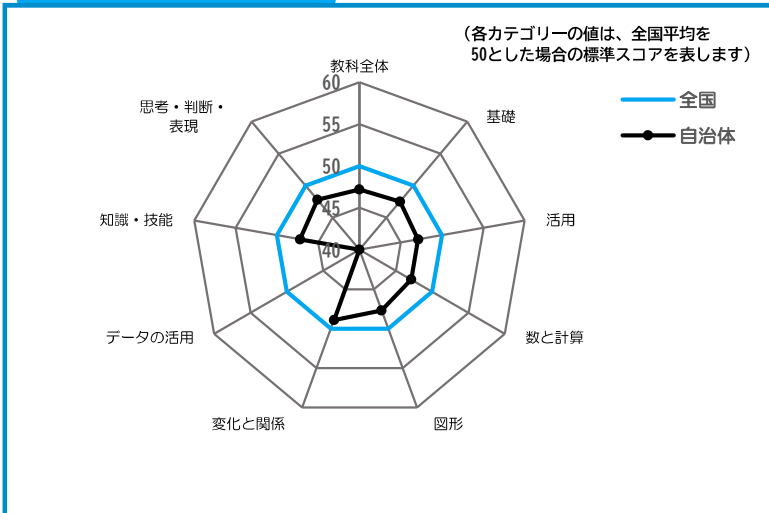
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		70.7	67.2	
基礎		75.7	72.0	
活用		58.9	56.2	
領域別	数と計算	71.7	67.3	
	図形	70.0	69.2	
	変化と関係	66.7	60.4	
	データの活用			
観点別	知識・技能	74.8	71.5	
	思考・判断・表現	57.1	53.3	

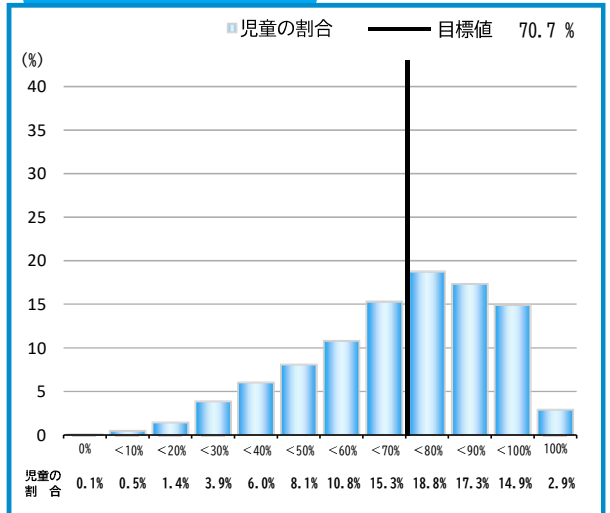
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が67.2%
- で、目標値を3.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「思考・
- 判断・表現」が53.3%で、目標値を3.8ポ
- イント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問5(2)

<ねらい>

分数の除法の文章問題にあった式を選ぶことができる。

目標値 55.0% 正答率 34.5% 差 ▲ 20.5 ポイント

指導のポイント

分数の除法の文章問題を解くための式として正しいものを選ぶ問題である。ホース1m当たりの重さを求める問題だが、除数と被除数を取り違えた誤答があった。誤答の原因としては、問題文の意味を理解せず、問題文に出てきた順番でわってしまったことなどが考えられる。分数の除法においては、小数の除法における学習経験を想起させて関連付けながら指導し、数直線に表して考察しようとする態度や、「2Lの重さが4kg」というように分数を簡単な整数に置き換えて考えようとする態度を育むことが大切である。

比と比の値

大問12(3)

<ねらい>

比を使って、全体の量から一方の量を求めている。

目標値 60.0% 正答率 49.2% 差 ▲ 10.8 ポイント

指導のポイント

比例配分の問題である。あたりとはずれの比が3:5であることから、①全部のくじの数120本を、 $3+5=8$ で8等分して、その3つ分を求める方法、②全部のくじの数 $120 \times \frac{3}{8}$ の式で求める方法などがあることが分かる。数量の関係を線分図などに表すことで、全体をいくつと見ればよいかを理解しやすくなることに気付かせたい。日頃の授業においても、考え方を図に表し、視覚的に理解させることが大切である。